

平成20・21年度 文部科学省委嘱 道徳教育実践研究事業

研究紀要

研究主題

主体的に判断し、
行動する心豊かな生徒の育成
～「道徳の時間」を要とした
道徳教育の充実を通して～



能登町立鵜川中学校

目 次

はじめに

1	研究主題	1
2	主題設定の理由	1
3	研究仮説 研究の全体構想図	2
4	研究実践	
(1)	全校的な道德教育の体制づくり	4
(2)	「道德の時間」の多様な指導法	6
(3)	心のノートを活用	9
(4)	家庭との連携	1 1
5	研究の成果と課題	1 5

おわりに

はじめに

本校は文部科学省の委嘱を受け、2年間にわたり道徳教育実践研究事業推進校として研究を進めてきました。平成20年に告示された学習指導要領は、改訂の柱の一つに道徳教育の充実を掲げています。その背景には、今日子どもたちが抱える課題 — 基本的な生活習慣の乱れ、学ぶ意欲の低下、社会性の低下、規範意識の希薄化等 — があります。

これらを踏まえて、学校として何が出来るのか、学校だから何が出来るのか。集団生活の場としての機能を十分に生かした道徳教育の充実を図る必要があります。

今の自分をしっかり見つめてほしい。他者の声にも真摯に耳を傾ける人になって欲しい。その上で、しっかりと自分の考えをもち、実践できる人になって欲しい。

研究主題「主体的に判断し、行動する心豊かな生徒の育成」には、そんな願いがこめられています。

さて、こうした流れを受けて、私たちの研究の中心は「道徳の時間」の充実にありました。学校全体で取り組む道徳教育が成果をあげるには、道徳教育の要として位置づけられた「道徳の時間」の充実が不可欠であったからです。

とはいえ、たったの週1時間。一定の結論があるようでない。教科のような評価もない。それゆえ、どのような授業を行えばよいのかと行きつ戻りつの研究でした。このような状況で、「道徳教育推進教師」を中心とした道徳教育体制は大いに機能してきました。

例えば、

- ・「道徳の時間」はすべて公開とし、その日のうちに授業の整理会を行う。
- ・全校一体となって道徳教育を進めるために、副担任も授業をする。
- ・毎時間の略案を残し、次の改善に生かす。

等々です。

これらの基本方針を確認し「とにかくやってみる!」。このスタンスこそが、職員の「道徳の時間」に関する理解を深め、本校の道徳教育の充実に大きく寄与しました。とはいえ、行った全ての授業が生徒の心を打ったわけではありません。しかし、強い願いを持ち、繰り返し繰り返しチャレンジした教師の姿勢が生徒の心に響いたようです。そのことは、「道徳の時間」に対する生徒の高い評価となって表れたと思っています。

また、生徒との接し方、学級経営、教科等の授業、部活動の指導等にも、ささやかな変化が現れてきました。道徳教育という糸が、様々な教育活動と職員を結びつけ、学校としての力が発揮できる体制が整いつつある証と言えます。

しかしながら、まだまだ実践途上の研究です。分からなかったところ、曖昧なところ、手の届かなかったところがたくさんありました。幸い、「研究発表が終わっても、授業研究は続けていきたい」という声も聞こえてきます。この発表を機に皆様から貴重なご意見・ご指導をいただき、より充実した実践へとつなげていきたいと考えております。どうか、よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、この研究の推進にあたり、的確なご指導と多大なご支援をいただきました関係の方々、心より御礼を申し上げます。

平成21年10月15日

校長 新 傳 博 文